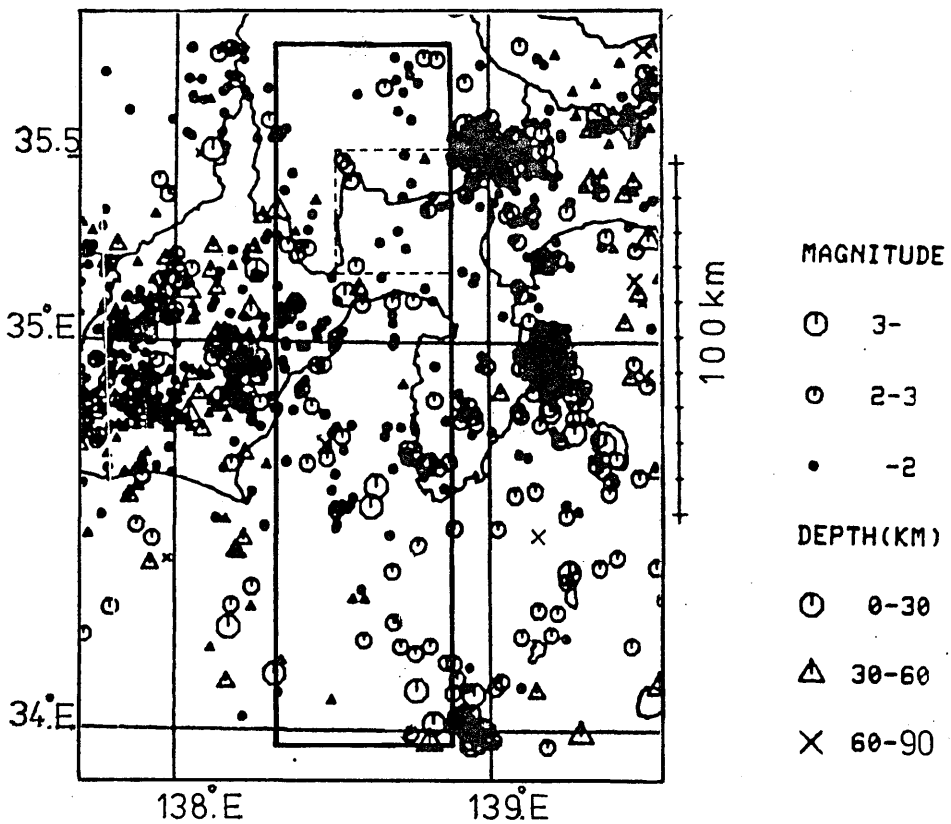


富士山周辺の地震活動*

国立防災科学技術センター

防災センターでは、1979年の後半より関東・東海地域における定常的地震観測を行なっている¹⁾。1980年1月から1982年3月における観測結果を基にして、富士山付近の微小地震活動の特徴をまとめると次のようである。

1. 富士山および駿河湾周辺の震央分布を第1図に示す。富士山付近(第1図破線域内)の地震活動度は、隣接する山梨県東部や静岡県西部あるいは伊豆半島東岸の活動度に比べてかなり低い。また、駿河湾



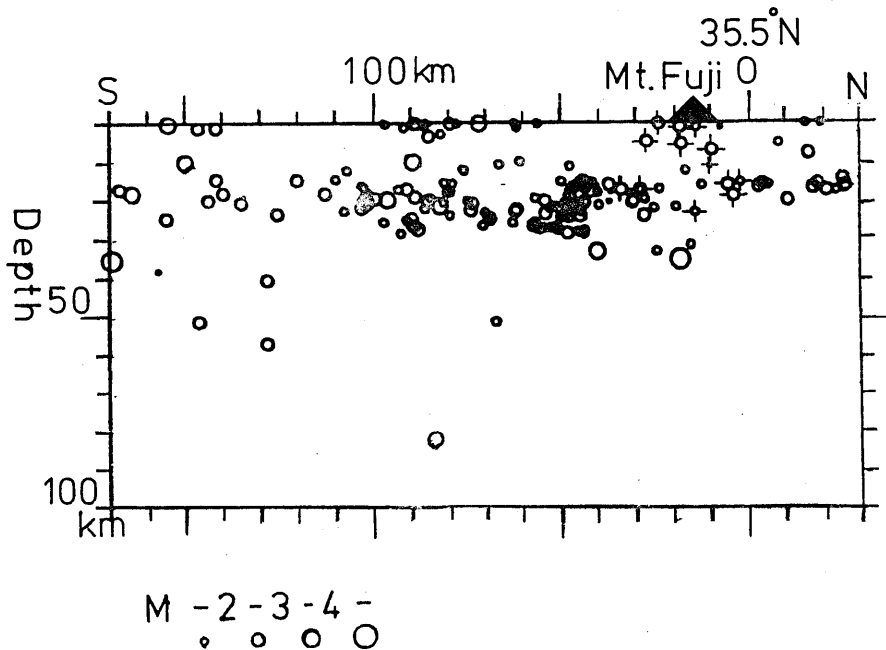
第1図 富士山付近の震央分布図(1980年1月~1982年3月)

Fig.1 Epicentral map near Mt. Fuji for the period from January 1980 to March 1982.

* Received July 14, 1982

内での活動度に比べてもやや低いようである。北方の山梨県中部も、富士山付近と同様に活動度は低い。

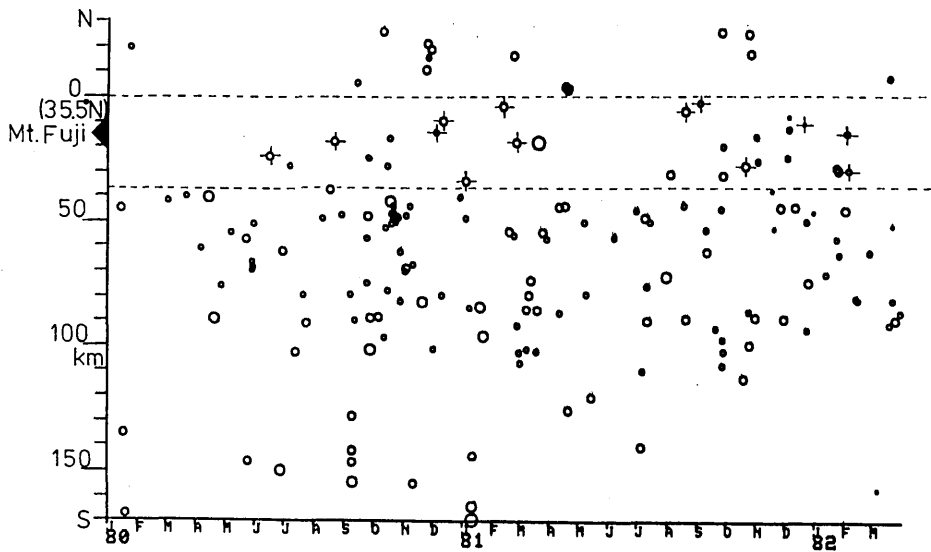
2. 山梨県中部から駿河湾に至る地域（第1図太線域内）に発生する地震の深さ分布を第2図に示す。富士山付近の地震（第2図中 \oplus 印）には、深さ0~10 kmに決定されているものが、いくつか認められる。南に隣接する駿河湾北端の海岸線付近の地震には、0~20 kmに決定されるものは見当たらない。富士山付近では、その周辺域よりさらに浅いところまで地震が発生しているものと思われる。



第2図 震源分布の垂直断面図（第1図太線内の地震）。 \oplus 印は、富士山付近（第1図破線内）の地震を示す。

Fig. 2 Vertical cross section (N-S direction) of hypocentral distribution for the shocks in the solid square in Fig. 1. Circles with cross symbol indicate the shocks in the dashed square in Fig. 1.

3. 南北方向の距離を縦軸にした地震の時空分布を上記2と同じ地域に対して示すと、第3図になる。第1図で破線で囲った範囲を2本の破線で示してある。活動の推移をみると、駿河湾北端付近（2本の破線のうち南方のもの）を境に、南と北では異なった活動パターンを示している。南側では、ほぼ定常的に活動しているのに対して、北側では活動の静穏な時期（例えば81年4月~7月）とやや活動的な時期がみられる。



M -2-3-4 -
 • ○ ○ ○ ○

第3図 地震の時空分布図(第1図太線内の地震)。縦軸は南北方向の距離。

Fig.3 Space-time plot for the shocks in the solid square in Fig.1.
 Ordinate is N-S component of distance from 35.5°N.
 Symbols are same as for Fig.2.

参 考 文 献

- 1) National Research Center for Disaster Prevention, 1980 : Seismological Bulletin of the National Research Center for Disaster Prevention, No. 7.